

2021 年度会員状況および事業報告

一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会

1. 会員状況

2022 年 4 月 1 日現在、正会員 A 237 社、正会員 B 189 社、正会員 C 3,985 社 計 4,411 社となっている。

2. 事業報告

(1) 会員活動

2021 年度もそれぞれの活動の充実、活性化を図り、推進した。

2021 年度も新型コロナウイルス感染症流行の状況をふまえ、主にオンラインでの開催となった。

a. 会員交流 (★:2021 年度新設)

(a) フォーラム

合計 389 名の方にメンバーとして登録いただき、下記のフォーラムを開催した。

2021 年度より新たに「IT グループ会社人材育成フォーラム」を立ち上げ、人事・人材育成担当の方を中心に 31 名(31 社)の方に参加いただいた。

また、2021 年度も、新型コロナウイルス感染症流行の状況をふまえ、オンラインでの活動となった。

- ・CIO エグゼクティブフォーラム(東京 1 グループ)
- ・IT 企業トップフォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT 部門経営フォーラム(東京 5 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社経営フォーラム(東京 3 グループ+関西 1 グループ)
- ・IT グループ会社人材育成フォーラム(東京 1 グループ)★
- ・グローバルフォーラム(シンガポール 1 グループ)

(b) 研究会

2021 年度は下記 16 の研究会を設け、440 名の方々が活動した。

新たに「基幹系システムアジャイル適用研究会」「HRCS(Human Resource Case Study)研究会」を立ち上げた。また、「デザイン思考×ソーシャルビジネス実践研究会」「サステナビリティ・トランスフォーメーション研究会」は名称・テーマをリニューアルして開催している。

2021 年度も、新型コロナウイルス感染症流行の状況をふまえ、主にオンラインでの活動となった。

4 月 13 日～15 日に、オンライン成果報告会(J フェス)で成果を報告した。

- ・ビジネスデータ研究会
- ・IT インフラ研究会
- ・サービスマネジメント研究会
- ・企業リスクマネジメント研究会
- ・ビジネスプロセス研究会
- ・IT 投資ポートフォリオ研究会
- ・組織力強化研究会
- ・デザイン思考×ソーシャルビジネス実践研究会★
- ・システム開発・保守 QCD 研究会
- ・AI 研究会
- ・デジタル変革リーダー自己育成研究会
- ・ダイバーシティ&インクルージョン研究会
- ・組織内起業家研究会
- ・サステナビリティ・トランスフォーメーション研究会★
- ・基幹系システムアジャイル適用研究会★
- ・HRCS(Human Resource Case Study)研究会★

(c) アドバンスト研究会

個別グループでの設立申請を受け、政策企画委員会の審査・承認を経て活動している。

「データエクスペリエンス研究会」「ひとと組織の well-being 研究会」については、2022 年

2 月に実施した「JUAS スクエア 2022 オンライン Spring」において、セッションを担当し、それぞれの活動内容・活動成果を披露した。

「レジリエンス世代によるイノベーション創出研究会」は 2 月 28 日に JUAS ラボを開催し、一般の参加者に対してワークショップを通じて実証を行った。

また 6 つのアドバンス研究会それぞれが、4 月 13 日～15 日に、オンライン成果報告会(J フェス)で成果を報告した。

- ・情報共有研究会
- ・CITP コミュニティ研究会
- ・データエクスペリエンス研究会－ Data and beyond －
- ・レジリエンス世代によるイノベーション創出研究会
- ・IT エンジニア育成研究会
- ・ひとと組織の well-being 研究会

(d) 未来ビジネスフォーラム

各社のデジタル化への対応について、様々な立場の方(CIO 経験者をはじめとした有識者)の参加を得て議論を進めている。

(e) システム開発高度化プロジェクト

2018 年度～2020 年度の成果を、2021 年度に、「データ経営が日本を変える！」として報告書を取りまとめた。印刷物を会員企業(正会員 A・B)に頒布するとともに、WEB 上でも公開している。

(f) 情報セキュリティ WG

企業における、情報セキュリティに関する課題とその解決方法の共有を目的に活動している。

2021 年度は 34 名が参加し、それぞれ情報セキュリティマネジメント、サプライチェーンセキュリティをテーマに、6 月より 2 グループに分かれて WG 活動をオンラインにて実施した。活動を通じて得られた知見は成果物としてまとめ、来年度以降に引き継げるようしている。

(g) 関西

前述の IT 企業トップフォーラム関西、IT 部門経営フォーラム関西、IT グループ会社経営フォーラム関西のほか、ミドルマネジメントクラスの情報交換の場として、PARK(The place of advanced relationship in Kansai)を編成し 18 社 21 名が参加し活動した。2021 年度は他の活動と同様にオンラインで実施した。

(h) 情報プラザ

12 月より JUAS ホームページに「情報プラザ」を新設した。企業 IT 動向調査のコラムや JUAS 活動に参加いただいている方のリレーインタビュー等を掲載し、有益な情報を発信した。

(i) JUAS アカデミー

IT に関する最新技術、関連施策に加え、業界や市場の動き、海外動向、経営に適用し得る考え方等の時宜に即したテーマを選び、単発の会員限定の勉強会として開催している。

2021 年度は IT 部門経営フォーラム、研究会が主催する JUAS アカデミーを中心に、オンライン形式で計 15 回開催した。

b. 「認定個人情報保護団体」活動

2018 年 9 月 12 日に認定個人情報保護団体として承認され、2021 年 3 月末時点で登録企業数は 829 社となった。前年度に引き続き、C 会員を中心に登録を受付し、苦情相談等を実施している。

また、個人情報保護法の改正にあたって、JUAS としての要望をパブリックコメントとして個人情報保護委員会に提出した。

c. セキュリティセンター（プライバシーマーク審査事業）

会員企業を対象にプライバシーマーク審査を実施している。

2021 年度の【申請件数】は、過去最多の 2,265 件となった(2020 年度対比+289 件)。
【審査件数】については、現有するリソースを最大限に活用し、2,114 件を実施した(2020 年度対比+614 件)。

今年度の申請件数の増加に加え、次年度以降も件数増加が見込まれることから、新規審査員の募集・育成に努めた。独自の月 2 回の審査員全員が出席する審査員会議や、教育担当による個別指導等を通じて、審査員のレベル向上を図っている。審査員のグループリーダー制度の見直しも検討着手した。

また、申請件数、審査件数ともに増加する中、組織マネジメントの強化、審査業務基盤整備を目指し、「プライバシーマーク審査業務刷新に向けた業務改革・IT 化構想」として、ありたい姿の策定、問題点の抽出を行い、構想を策定、プロジェクト立案を実施した。次年度以降、プロジェクトを推進していく。

2020 年度は、毎年秋に実施していたプライバシーマークカンファレンスを中止せざるを得なかったが、2021 年度は 11 月にオンラインでのカンファレンスを開催し、236 社が参加した。また、プライバシーマークに係る PMS の構築相談等、各種会員サービスも継続して実施した。

(2) 教育研修事業

a. オープンセミナー

2021年度は、オンラインセミナー(録画、オンラインライブ受講、アーカイブ受講)を中心に開催、一部のセミナーは、会場・オンライン併用のハイブリッド形式として開催した。

4～9月および、2022年1～2月は、新型コロナウイルス感染拡大のため、オンライン形式のみに切り替えることを余儀なくされた。

受講者数については2020年度に比べると+800名と回復傾向にあるが、2019年度のコロナ前の水準には戻っていない。

<オープンセミナー開催実績>2022年3月31日時点

	2019年度	2020年度	2021年度
開催数	294本	175本	209本
受講者数	4,077名	1,691名	2,530名

b. コース型研修

複数日の開催で、情報交換や他流試合が可能なコース型研修として、中堅層を対象に以下のコースをオンラインで開催した。

(a) 「ファクトベースで学ぶITマネジメント力アップ」集中コース

組織・グループのリーダー/マネージャー(課長クラス)になった方等を対象にIT業務全体を俯瞰できるような、「IT投資」「人材」「データマネジメント」「DX」等のITマネジメントを、「企業IT動向調査」のデータ等や事例をベースに学ぶコースとして、今年度はオンラインで2021年9月～2022年2月までの全6回(月1回ずつ)開催した。

(b) JUAS カフェ

実際に活躍しているビジネスパーソンをカフェマスターとして招き、講義、対話による多面的思考、積極的な意見交換による人脈ネットワーク構築を目的として開催している。全3回のコースを2クール(9月、2月)、オンラインにて開催。

コース構成としては、第1回はファシリテーションを体験、第2回、第3回はカフェマスターを招き、第1回の体験を活かしながら、意見交換を行った。

(c) 「情報セキュリティマネジメント力アップ」集中コース

情報セキュリティマネジメントにおいて重要な項目を、情報セキュリティWGの研究成果をベースに、「ユーザー自らが語る事例」、「簡単なワークショップ」を通して学び、実践力の向上を目指す。

2022年1月より、オンラインで3回開催した。

c. 新人・配転者育成プログラム

2021年度の新人・配転者育成プログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、6月中旬より完全オンライン形式で開催した。受講者数は11社40名で過去最高となった。

本年度は企業経営と情報システムについての研修を講師、内容共に一新し、その他講義内容も部分的に見直した。演習はオンラインでも研修効果を得られるよう、一部講座に講師を複数配置する、複数PCでブレイクアウトセッションを同時にモニタリングするなどの対策をとって実施した。

d. 教育研修の受託・講師の派遣（オーダーメイド研修）

要望に応じて企画提案し講師を派遣するオーダーメイド研修は、相談件数が徐々に例年並みの件数に戻りつつある。2020 年度に研修を控えていた各企業が本来の事業活動に戻り、またデジタル化への取り組みがさらに活発になっていることを受けて、あらためて人材育成に注力していることが影響していると考えられる。

開催形式は、ほぼすべてオンライン形式で、聴講型講義だけでなく、演習中心とした講座も人気となっている。内容としては、ボトムアップを目的とした「プロジェクトマネジメント強化」「文章力強化」「ロジカルシンキング」「ファシリテーション」といった定番コースのほか、DX 関連講座も相談が多くなっている。DX 関連講座では特に、社内全体を DX に対して動機付けするための研修相談が増えている。

2021 年度の開催実績は、29 開催、受講者数は 480 人となった(2020 年度対比+76 名)。

e. 普及出版

出版物は、現在約 10 種類を配布・販売している。毎年発行している「企業 IT 動向調査」「ソフトウェアメトリクス調査(システム開発・保守調査)」「ソフトウェアメトリクス調査(IT 運用コスト調査)」は昨年度よりオンラインでも公開を行っている。2020 年度から、上記いずれも販売はせず、無償公開(WEB から PDF をダウンロード)とした。

f. ミニ研修（JUAS ラボ）

2021 年度上期は「読書会 ABD:well-being パターンランゲージ」、をテーマにオンラインで開催したほか、9 月には「DX 基礎講座」として、「デジタルビジネス」「IT 変革」をテーマとした講演を期間限定で無料録画配信を行い、好評を得た。

下期には、「女性リーダーのための実践グループコーチング」、デジタル変革リーダー自己育成研究会主催のラボ(全4回)、「レジリエンス世代によるイノベーション創出研究会」主催のワークショップを開催した。

(3) 普及推進事業

a. JUAS スクエア 2021 オンライン

2021 年度は、7 月 14 日(水)、15 日(木)の 2 日間にわたり、「JUAS スクエア 2021 オンライン」を、昨年度に引き続きオンライン形式にて開催した。

テーマを「変化を味方に～デジタル中心へ マインドチェンジ!!」と掲げ、事前登録者 859 名、当日参加者 721 名と多くの方にご参加いただいた。イベント全般に対するアンケートの総合評価も好評であった。

大学教授と企業経営者の基調対談に始まり、IT 関連企業経営層による特別講演、JUAS 会員の IT 部門長やグループ会社役員より、取り組み紹介や意見交換を視聴するフォーラムセッション、協賛企業と事例企業のペアセッション、ベストプラクティスを共有する事例セッション、活動研究の成果を紹介するスクエアセッション、そして、総括講演と、双方向のアンケート実施やチャットを活用した意見交換など、オンラインならではの特徴も生かしたセッションを展開した。

基調対談・総括講演の内容は以下の通りである。

- 基調対談 「今こそ実現する 社会全体のデジタルトランスフォーメーション」
村井 純 氏 慶應義塾大学 教授 内閣官房参与
大林 剛郎 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 会長
モデレーター：
三宅 晃 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事
- 総括講演 「ニュータイプの時代 ～新時代を生き抜くための思考と行動様式～」
山口 周 氏 独立研究者、作家、パブリックスピーカー

b. JUAS スクエア 2022 オンライン Spring

通常は年1回開催の JUAS スクエアだが、コロナ禍においても情報発信を増やすべく、2022 年 2 月 17 日(木)・18 日(金)に「JUAS スクエア 2022 オンライン Spring」を開催した。

事前登録者 810 名、当日参加者 697 名とこちらも多くの方にご参加いただいた。

基調講演・総括講演内容は以下の通り。

- 基調講演 「JFE スチールの挑戦 ～変革に向けた骨太の取組を追求して」
新田 哲 氏 JFE スチール株式会社 常務執行役員
モデレーター：
三宅 晃 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会 専務理事
- 基調講演 「デジタル庁が目指す日本のデジタルトランスフォーメーション」
村上 敬亮 氏 デジタル庁 統括官 国民向けサービスグループ長
モデレーター：
山田 哲寛 氏 JUAS デジタル変革リーダー自己育成研究会 部会長
日本電気株式会社 経営システム本部 主任
- 総括講演 「産直アプリでかきまぜる都市と地方
～ 一次産業を情報産業へ デジタルで実現する共助の世界」
高橋 博之 氏 株式会社ポケットマルシェ 代表取締役
モデレーター：
斉藤 学 氏 JUAS 組織内起業家研究会 部会長
スカイライトコンサルティング株式会社 シニアマネジャー

c. イノベーション経営カレッジ

IT 活用によるビジネスイノベーションを実践できる人材を育成・支援する場である、イノベーション経営カレッジを今年度も引き続き実施した。人材育成の場である「プログラム」、イノベーションリーダーの交流の場である「コミュニティ」、イノベーション経営の研究を実施する「ラボ」の3つの要素で活動している。

IMCJ2.0 プログラムは、2021 年度(19 期)を、12 社 13 名の参加を得て、前半:2021 年 10 月、後半:2021 年 11 月、総括:2022 年 1 月に、軽井沢プリンスホテル等で開催した。

また、2018 年度より新たに開催している、事業創造のための 7 日間の協創プログラム「Challenge Camp」についても、2021 年 11 月より、15 社 18 名の参加を得て第 4 期を開催した。(11 月～1 月は集合開催、2 月・3 月はオンラインでの開催)

いずれも感染症対策として、人数を限定しての実施としている。

(4) 調査研究

a. サイバーセキュリティ人材調査 ※経済産業省委託事業

企業におけるデジタルトランスフォーメーションの推進に伴い、サイバーセキュリティがより一層重要となってきた。本調査では、サイバーセキュリティ経営の実現に向けた取り組みや、企業におけるセキュリティ人材の活躍モデルについてインタビュー調査を実施し、その重要ポイントを取りまとめた。

(5) 企業 IT 動向調査

1994 年から企業の IT 投資、IT 導入状況、IT 活用の実態、組織・体制等、動向全般についての俯瞰的な調査である「企業 IT 動向調査」を毎年実施しており、今年で 28 年目となる。トレンドだけではなく、ユーザー企業における重要課題を「重点テーマ」と位置づけ、様々な角度から深く掘り下げ、解決に向けた指針を提言することを目指している。

実施に際しては、調査委員会・調査部会を組成し、テーマ選定、調査内容の企画、分析、報告書執筆を行う。調査方法としては、経年変化を中心に動向の把握を目的としたアンケート調査と、取り組みを深堀するインタビュー調査を併用して実施した。

2021 年度は、「デジタル経営の分岐点」を重点テーマに取り上げ、アンケート調査は 9 月～10 月に、WEB サイトからの回答に限定して 1,132 件(4499 件送付、回収率 25%)の回答を得た。

また 12 月にユーザー企業の IT 部門長(11 社、12 名)の参加を得て、オンライングループインタビューを実施した。報告書を執筆する調査部会メンバーが、調査から得られた結果と IT 部門長の現場の肌感覚が一致しているか確認するとともに、具体的な課題や取り組みをお聞きした。

本年度は情報発信の一つとして、新たに速報値の公開の取り組み強化も行った。11 月に速報版のクロス集計結果を JUAS 会員企業ならびに回答社に限定して公開し、12 月には速報解説動画も公開した。また、速報解説動画をコラム化して JUAS の HP にて広く公開する取り組みも開始した。

※本事業は 2012 年度より公益目的支出計画の実施事業として行っている。

以上